

DPRI NEWSLETTER



防災研70周年



京都大学防災研究所創立70周年式典／交流会
畑山 満則／吉村 令慧

卒業生からのメッセージ
松田 曜子／藤野 宏興／花谷 慎太郎／目代 邦康

サイドイベント報告
平石 哲也／西嶋 一欽／川池 健司／中野 元太／
西村 卓也／森 信人／畑山 満則

七十年史編纂後々記
池田 芳樹

参加者からひとこと
入倉 孝次郎／Risye Dwiyani／上道 京子／園田 忠臣／吳 映昕／
Nombulelo Kitsepile Ngulube／佐伯 かおる

連載

DPRI 掲示板 行事予定／受賞・表彰／人事異動

- 10 お道具拝見 ⑦ 川池 健司
水理実験はじめての第一歩 ― ポイントゲージ
- 11 若手研究者から ⑰ 西川 友章
スロー地震分布の解明と地震活動の確率予測

編集後記





令和3年度 京都大学防災研究所研究発表講演会 2月21日(月)・22日(火)開催

詳細・聴講申込は、下記リンク先をご覧ください。
<https://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/news/15185/>



◆プレナリーセッション

2月21日(月) 9:00 開会の言葉……中北英一
特別講演 9:05 James Mori「大地震時の断層の摩擦強度」
9:45 橋本 学「夢と現の地震予知」

2月22日(火)

特別講演 13:30 西上 欽也
「活断層での観測・実験・研究とともにー野島断層・山崎断層・跡津川断層ー」
14:10 金井 俊孝「我等ガ斜面」
14:50 田中 茂信「国土保全と私」

災害調査報告 15:40 竹林洋史「2021年7月に熱海市伊豆山で発生した泥流」

技術支援報告 16:00 趣旨説明……吉川 昌宏
16:05 三浦 勉「今までにやってきた技術支援」
閉会式 16:15 優秀発表賞授賞式
16:45 閉会の言葉……渦岡 良介

◆パラレルセッション

2月21日(月) 10:40～12:30, 14:30～18:00 口頭発表
12:30～14:30 ポスター発表コアタイム
2月22日(火) 9:00～12:30 口頭発表

宇治川オープンラボラトリーに 京大創立125周年看板を設置しました

2022年の京都大学創立125周年を記念して、宇治川オープンラボラトリー第1実験棟の京阪電車沿いの壁面に看板を設置しました。看板は、縦4m横6mのサイズが2面です。

京阪本線中書島駅～淀駅間の車窓からも見ることができますので、ぜひご覧ください。



杉山 高志 特定研究員
矢守 克也 教授

日本質的心理学会
第18回大会 大会賞
[2021年10月24日]

■受賞題目
「Days-Afterの視座を用いたアクションリサーチ」

杉山 高志 特定研究員

Silver Prize Young Scientist Award in Young Scientist Session,
The 11th International Conference of the International Society
for the INTEGRATED DISASTER RISK MANAGEMENT (IDRM)
[2021年9月24日]

■受賞題目
Analysis of Regional Response to "Special Early Warning Information" on the Nankai Trough Earthquake

王 自謙

(地震災害研究部門構造物被害研究分野/工学研究科建築学専攻D1)

Early Career and Student Award,
17th World Conference on Earthquake Engineering
[2021年10月2日]

■受賞題目
Site Amplification Characteristics with Soil Nonlinearity Observed in K-NET and KiK-net and Their Empirical Modeling

大武 亮太

(地震災害研究部門耐震基礎研究分野修士課程/
工学研究科都市社会工学専攻2020年3月卒業)

Early Career and Student Award,
17th World Conference on Earthquake Engineering
[2021年10月2日]

■受賞題目
Deep learning model to predict real-time seismic intensity

曾我部 哲人

(社会防災研究部門都市防災計画研究分野/
工学研究科建築学専攻D3)

復興デザイン会議
第3回復興研究論文賞奨励論文賞
[2021年10月19日]

■受賞題目
「自然災害が地域の人口変動に及ぼす影響の評価に関する研究」

曾我部 哲人

(社会防災研究部門都市防災計画研究分野/工学研究科建築学専攻D3)

今井 陽美 (同M1)、高山 裕希 (同M1)、
矢ノ根 知佳 (同M1) ほか

U30復興デザインコンペ2021 優秀賞
[2021年11月27日]

■受賞題目
「分解都市 ESCAPE TO "GOW"」

>>> 人事異動

*教授・准教授・助教・職員(それぞれ常勤・客員・特定・特任)について掲載

[2021年10月1日]

地震予知研究センター地震予知情報研究領域
特定研究員 PLATA MARTINEZ, Raymundo Omar /採用

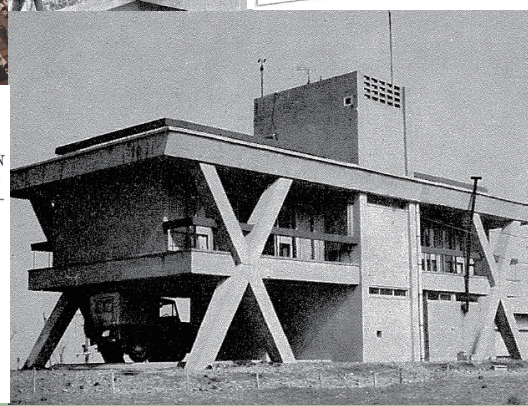
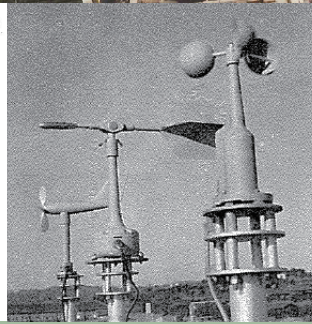
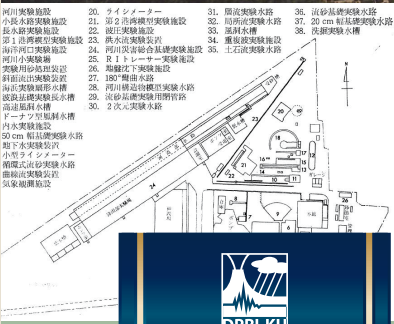
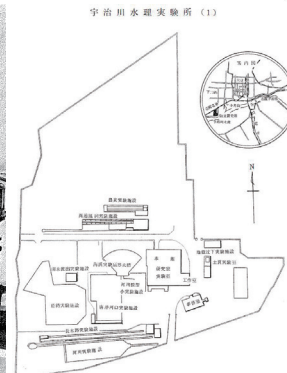
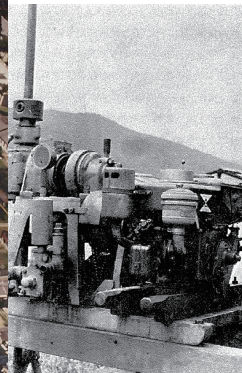
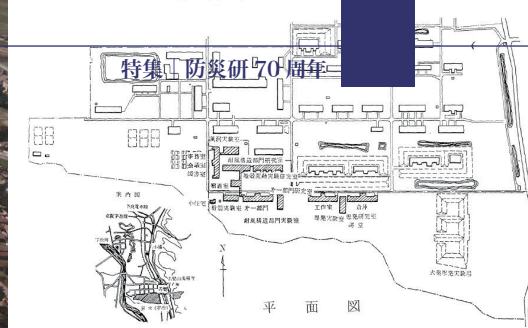
気候変動リスク予測適応研究連携研究ユニット 特定研究員 HO, Tungcheng /採用
← 気象・水象災害研究部門沿岸災害研究分野学振外国人特別研究員より

[2021年12月1日]

水資源環境研究センター地域水環境システム研究領域 特定研究員 塩尻 大也 /採用

[2021年12月31日]

(同上)特定研究員 塩尻 大也 /退職



特集 防災研70周年

京都大学防災研究所は、1951年の創立からこのたび70年を迎えました。70年にわたり総合的な防災研究の拠点として研究活動を継続することができたのは、ひとえに皆様のご支援の賜物です。

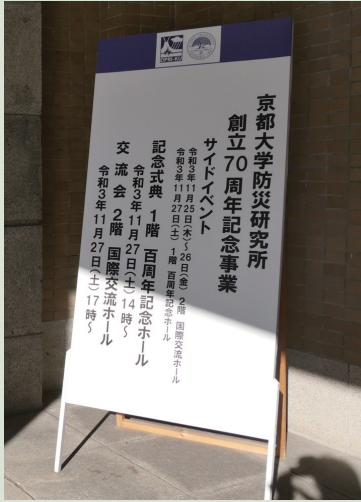
これを記念して、2021年11月27日（土）に創立70周年記念式典と交流会を京都大学百周年時計台記念館にて開催し、11月25日（木）～27日（土）に7つのサイドイベントを開催しました。

教職員はもちろん卒業生や滞在研究者など防災研究所に関わりのある人々が集まり、70年という節目を一緒に祝うとともに、旧交を温め、今後を語り合いました。



京都大学防災研究所創立70周年記念式典

2021年11月27日14時より防災研究所70周年記念式典が百周年記念ホールにて開催されました。式典では、中北所長による防災研70年を振り返る式辞、湊総長による防災研への期待を込めた祝辞のあと、



中北所長、岩田教授、井口教授、矢守教授による記念座談会「パラダイムシフトをリードする防災研究所」が開催されました。防災研でしかできない異分野横断型の新たなパラダイムを創生し、パラダイムシフトをリードしていくための議論が展開されました。 **(畑山 満則)**



湊長博総長による祝辞



記念座談会「パラダイムシフトをリードする防災研究所」



交流会

防災研究所70年の歴史の中で初の”大同窓会”をコンセプトに、卒業生と旧交を温めていただく場として、国際交流ホールにて交流会を開催しました。ハイブリッド形式であったにもかかわらず、現地参加者103名・バーチャル参加申込者110名と、多くの関係者に集っていただきました。現地とバーチャルの交流が十分でなかったかもしれませんが、湊長博総長の防災研への親近感あふれるご挨拶や、4

名の卒業生からのスピーチ、在りし日の防災研の姿を懐かしむ画像紹介など題材に、久しぶりの大規模行事をお楽しみいただけたものと思います。当日の上映を見送りました恩師の先生方のインタビュー動画は、後日、落ち着いた環境でご視聴いただきました。開催に際して奔走いただいたWG委員・関係職員の皆様には心より御礼申し上げます。

(吉村 令慧)





卒業生からのメッセージ

防災研を卒業して各界で活躍中の4名の方々に、70周年を迎えた防災研へメッセージを寄せていただきました。

松田 曜子

長岡技術科学大学
2007年3月博士課程修了

私の在学当時の災害リスクマネジメント研究室は、出身や専門領域の異なる来訪者や留学生が行き交い、ゼミでの議論がまとまらないこともしばしばでした。

今、自らの研究室を持ち、あの環境を作るために先生方がかけたエネルギーに思いを馳せるとともに、言語やテーマ別に行うゼミ運営が、効率的だけれども、偶然生まれる議論の面白みを逃しうることもわかるようになりました。

「多様性とは面倒で非効率なもの」、これを身をもって体験したことは、今の私の研究テーマである、住民参加型の防災にもつながります。学生時代にこうした環境での研究が許されたことに感謝しています。



藤野 宏興

株式会社INPEX
2009年3月修士課程修了

防災研究所70周年おめでとうございます。このような慶事にお呼び頂きありがとうございます。

本研究所では、地震学をはじめ地球科学について多くの事を学びました。また、片尾先生をはじめ、ここでの多くの方との触れ合いを通して人生の基礎を築くことができました。ここで学び、ここから社会に出ることができたのは私にとって非常に大きな財産です。地震の研究を離れ、石油開発業界に進みましたが、ここでの経験が今の仕事にも大きく役立っています。さらに、一生の友達もできました。

最後に、この記念行事を機にさらなる飛躍と皆様のご繁栄を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



花谷 慎太郎

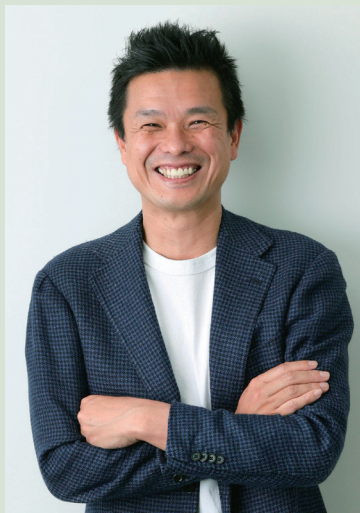
株式会社ギックス共同創業者・取締役
2001年3月修士課程修了

防災研70周年おめでとうございます！

私は防災分野から離れた分野でデータ分析会社を共同経営していますが、防災研で学んだことは現在の仕事にもすごく活かしていると感じています。

防災研で培ったチャレンジ精神や物事をやり遂げる力はこれまでのキャリアを積んでくるのに役立ちましたし、40代を迎え防災研繋りの人的ネットワークでビジネス展開できる機会も増えてきました。

それらに感謝するとともに、防災研の末永いご繁栄をお祈り申し上げます。



目代 邦康

東北学院大学教養学部
2002年3月博士課程修了

大学院生のときに、山地災害環境研究分野の千木良雅弘先生や地盤研究グループの先生方にご指導いただきました。大学院修了後は、大学、博物館、財団法人を経て起業し、現在では仙台にある大学で自然地理学を教えています。過去のいずれの職場も、斜面災害からは少々離れた業界でした。しかし行く先々で、かつて防災研の先生にお世話になったからと良くして下さる方がいて、さらに、修了して離れた分野にいるにも関わらず、防災研の先生方や同じ時期に大学院生だった方々にいろいろと助けていただき、活動の幅を広げることができました。防災研で学んだことと、こうした人との繋がりが私にとって大きな財産となっています。





サイドイベント報告

創立70周年記念式典と交流会に先立って、7つのサイドイベントを開催しました。

地震津波連携研究ユニット設立セミナー

11月25日9：30より11：30まで国際交流ホールIで開催された地震津波連携研究ユニット設立セミナーには、早朝にもかかわらずオンサイトで23名、オンラインで15名の皆様に集まっていただきました。発表は震源モデル、津波火災、地域防災などユニットの目指す総合的な津波防災軸に沿った課題を厳選し、成果の活用法について議論がなされました。マスコミは、水道産業新聞社(1月中旬掲載)、読売テレビ(3月11日の防災特集)に来ていただきました。

(平石 哲也)



防災ビジネスピッチコンテスト

民間企業の協力のもと、ビジネスピッチコンテスト(賞金あり!)を開催しました。国籍を問わず、学生を含む若手の研究者を中心に11組(17名)の応募があり、大変充実したイベントとなりました。審査には防災研の教員のみならず、民間企業の方々も加わっていただき、アカデミア・企業の双方の立場から様々な意見が出ました。本コンテストをきっかけに防災ビジネスに興味を持ってもらえる人が増えるとうれしいです。受賞者には改めて機会を設けて受賞のお言葉をいただければと思います。



(西嶋 一欽)

フィールド研究拠点シンポジウム 「隔地観測所・実験所からフィールド研究拠点へ」

防災研では2021年4月より、隔地施設を「フィールド研究拠点」と呼ぶようになりました。それを機に本イベントを開催し、所外の隔地の先生にもご参加いただいて、各拠点の活動紹介と将来展望に関する議論を行いました。予算・人手不足、施設の安全性、研究のためのエフォート確保など、同じ悩みを抱えながらも、日本の各地で社会と接する最前線でフィールド拠点はがんばっています。今後も所内外の方たちと意思を共有する機会を作りたいと思います。

(川池 健司)



パネルディスカッションの様子。左から、川池教授、堀教授、澁谷教授、中道准教授、藤田教授、徳地直子フィールド科学教育研究センター教授

第50回記念総合防災セミナー 「総合防災の新しいチャレンジへ」

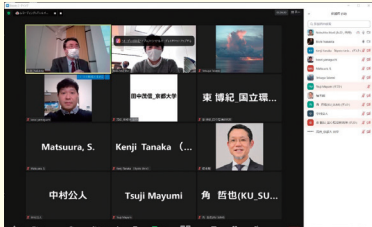
「50分話して疲れたから一旦休憩にします!」と講演者である岡田憲夫名誉教授が自ら言う。それとともに、会場からは笑いがおこる。巨大災害研究センターと社会防災研究部門が継続してきた総合防災セミナーシリーズの記念すべき第50回目は「これからの総合防災」を語る岡田先生の情熱で満たされた。会場からも問いが投げかけられ、旧知の先生同士の侃侃諤諤な議論が繰り広げられる。和やかだが引き締まった70周年ならではの空間は、若輩者の私にもその歴史の厚みを感じさせた。

(中野 元太)



気候変動リスク予測・適応研究連携 研究ユニットワークショップ

ワークショップは、連携研究ユニット内での意見交換を目的に行いました。前半では、竹見哲也准教授と榎本剛教授から台風の風水害に着目したシミュレーションと台風経路予測に関わる不確実性についての講演がありました。後半では気候変動リスク予測・適応研究がこれからどのような方向に向かっていくのかという論点について、フリーディスカッションを行いました。



普段のプロジェクトベースの目的志向の議論から離れて、自由に議論ができたことは良かったと思います。農学部や外部の方からも参加いただきました。

(森 信人)

2021年度第3回地震・火山グループ研究会

11月26日午後2時より時計台記念館国際交流ホールIIIにおいて、地震・火山グループ研究会が行われました。研究会では、地震火山グループの研究室を卒業し、現在研究者として活躍している平松良浩金沢大教授、後藤忠徳兵庫県立大教授、行竹洋平東大地震研准教授、沖野郷子東大気海洋研教授の4名の講師による講演と澁谷拓郎地震予知研究センター長も交えたパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、特に大学院生に向けて研究者の職業としての魅力や後輩へのメッセージを語っていただきました。研究会には、会場に約40名、オンラインでは約35名の参加があり、コロナ禍の中で対面の機会が限られる中で、久々の臨場感を感じながら、講演終了後には個別に質問することができるなど、対面開催の良さを活かした研究会となりました。

(西村 卓也)



第7回DPRI Award授賞記念講演会

70周年事業のサイドイベントの一つとして第7回防災研究所国際表彰DPRI Award授賞記念講演会が行われました。研究協力貢献賞を受賞された陳亮全先生(台湾国立防災救助技術センター前センター長)から「防災科学研究をいかに実践に繋げるかー台湾のNCDR(国家災害防



救科技中心)の経験を通して」と題した講演で、防災研究所との交流の歴史を交えつつ、台湾での災害リスクマネジメント、気候変動予測研究の実践に関して多くの事例を紹介いただきました。

(畑山 満則)



七十年史編纂後々記

池田 芳樹
IKEDA Yoshiki
地震防災研究部門 教授



研究所のホームページに公開されている七十年史では、編纂委員会を代表して編纂後記を執筆しました。この後々記はその続編です。私が編纂担当になったことを所内で時々訊かれましたので、今後の年史編纂のためにも経緯をお伝えします。

七十周年記念行事が私のいる場で最初に話題になったのは、2019年4月でした。橋本所長（当時）の下での初回の執行部会議の場で2年間の主な仕事を確認した最後に、「実は」という切り口で話になりました。六十周年行事が復習され、東北地方太平洋沖地震の直後ということもあり、その準備が大変だったことは、経験していない私にも理解できました。2週間後の会議では、七十周年を見送って七十五周年という話も出ました。先送りすれば仕事量が減るという思惑も、多少あった気がします。しかし、会議構成員のうち3人は、退職までに七十五周年は逃れられないと考え

ており、日本の文化で25年単位はないみたいな話もありました。最終的に七十周年行事を催すことは決まりましたが、この時点では2年先であり、その後一年間全く話題にあがりませんでした。やや腰が引けた雰囲気も影響したのかもしれませんが、この行事は広報・国際担当副所長の分掌でし

たので、自己点検・評価委員会の立場の私は、それほど自分には負担にならないと内心思っていたことも事実です。

2020年度に入り、所長が「そろそろ準備を始めないと」と切り出し、年史編纂委員長は広報・国際担当の石川副所長（当時）という提案がありました。副所長からは「年度末で退職するので、協力するが委員長は他の方に」というお願いがありました。私は3年毎に刊行する自己点検

評価報告書の作成に取り組んでいる時で、「池田さんが仕事としては一番近い」という雰囲気を感しました。それは事実でしたので「私がします」と応えました。還暦である六十周年に比較して、行事は学内で行い簡素に、年史は最新十年間を中心として薄くして電子版に、という基本路線はその時に合意されました。六十年史に倣って「そつなく」編纂すればよいと思い、資料の在りかを早速問い合わせたところ、電子原稿が所内



70周年記念式典ではメモリスティックに入れたPDF版を配布しました

で保管されていないことを知り慌てました。その後、六十年史の印刷会社に原稿（ワープロ原稿ではない）が残っていることがわかり、ほっとしました。今回は電子資料を整理して残しますので、今後の編纂をよろしくお願いいたします。

作業は2020年秋に本格化し、当初の予定よりも早く2021年9月末に出来上がりました。2017年に研究所に赴任した私には、2011年からの十年間をまとめるプレッシャーはありましたが、研究所をよく知る絶好の機会になりました。70年間の記録を背負っているため、それなりのページ数になりましたが、作業を通じて十年単位の年史が適していることを実感しました。そして、研究所の歴史の重みも実感することができました。



交流会での「七十年史」のお披露目と紹介



少数のみ製作した冊子版



参加者からひとこと

私が防災研に職を得たのは1995年の阪神大震災以前で、そのころは「災害の学理」の研究に偏っていて、防災に役立つ研究には程遠かったが、70周年となった現在、主舞台は、災害研究の社会実装に繋がる防災学からリスク評価まで、広がっていることがよくわかった。



入倉 孝次郎
名誉教授

研究室、図書室から担当事務室勤務となって現在に至りますが、70周年記念行事では多数の教職員、卒業生の皆さんにお会い出来て、それぞれの変化？に防災研での教育・研究活動を共に築いて来られた遠く長い年月を思い、懐かしさと感謝の気持ちで一杯でした。



上道 京子
宇治地区事務部
事務補佐員



Risy Dwiyani
世界銀行勤務
(工学研究科都市社会工
学専攻修士課程修了)

I am grateful for having the opportunity (again) to listen to the talks of my Sensei — Okada Sensei and Yamori Sensei.
Seeing familiar faces (although only on screen) during the discussion really made my day.
Much appreciation to the organizer for reaching out to overseas alumni like me.

この度は、防災研究所70周年記念、誠にありがとうございます。
このような式典に参加でき、また多くの先生方とお会いし、交流する機会が持てたことを嬉しく思いました。
今回の記念式典そしてパネルディスカッションに参加したことで、将来発生する可能性のある、様々な災害リスクに対して、今後どう考え進んでいくかということ、各分野の先生方が研究を進めていることが熱く伝わってきました。
私はフィールド研究拠点（遠隔地）勤務になりますが、今後の防災研究所の益々のご発展を祈願するとともに、防災研究所の技術職員として微力ながら貢献していけるよう、改めて誓うところでした。



園田 忠臣
技術室 観測技術グループ長

創立70周年記念座談会に多様な角度について深く議論を拝聴して、防災研の未来への卓見と不可欠性を再度強く認識しました。この素晴らしい研究所の中の一員としてとても光栄だとの気持ちを持って、もっと将来の防災研究教育に貢献していきたいと激励されました。



呉 映昕
気象水文リスク情報研究分野
特定准教授



Nombulelo Kitsepile Ngulube
防災社会システム研究分野
大学院生

I take great pleasure in congratulating the Director, Professors staff, students and alumni of the DPRI, on this auspicious 70th anniversary celebration. DPRI has become a commendable hub of nurturing professional researchers from around the world. It has committed itself to triangulate research, teaching and community engagement. I wish the institute a fruitful and memorable milestone and continued success in future explorations, research and partnerships.

防災研に来てから7年経ちました（現在8年目）。新参者のつもりでしたが、あっという間に防災研70年の歴史の10分の1を私も過ごしたことになります。いまの学生さんたちがきっと所長や教授を務めているだろう100周年にはいったいどんな防災研になっているのか、ちょっと覗いてみたいです。



佐伯 かおる
広報出版企画室 特定職員

研究者たちが、研究に欠かせないツールについて愛をこめて語ります

お道具拝見

7

水理実験はじめての第一歩

ポイントゲージ

川池 健司

KAWAIKE Kenji

流域災害研究センター 教授



今回のお道具は、ポイントゲージです。地味すぎて拍子抜けされた方、申し訳ありません。

授業で使った（見た）ことがあるという方も多いのではないのでしょうか。かくいう私はと

いうと、15年前に宇治川オープンラボラトリーに来るまで、まともに触ったことがありませんでした。というのも、学生のときは「水理実験」の授業を履修せず、研究室は宇治キャンパスでもっぱら数値解析のみを行ってきたので、水理実験の現場とはほとんど縁がなかったのです。

ポイントゲージとは

ポイントゲージは、水理実験において、水位や水深を計測するためのアナログの機器です。上下に移動可能なスケール部分と、高さを固定した読み取り部分から構成されます。スケールの針先を読み取りたい高さに合わせて、そこでの目盛を読み取ります。ですが、ゼロの高さが定義されていなければ目盛の値そのものには意味がありませんので、例えば水深を測りたいときには、水面と水路床の2箇所の目盛りを読み取って、その差を計算することになります。また、目盛の読み取り部分には副尺が付いていて、0.1mmの精度で読み取ることができます。

水理実験と私

水理実験の現場をほとんど知らない私が、授業で計測機器の使い方について説明する講義を担当することになり、避けて通れなかったのがポイントゲージでした。現物を見てもらおうと、先端の針を気にしながら宇治川オープンラボラトリーから吉田キャンパスまで電車で持ち運び、授業中に教卓の上に置いたところ、円形の固定板は転がりやすく、教卓から落として針を



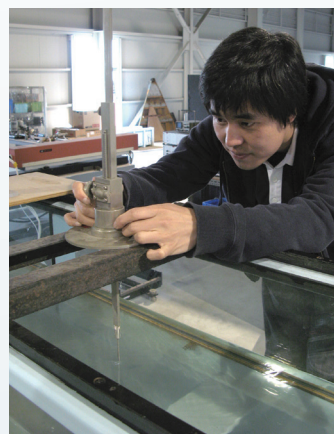
ポイントゲージ

へし折ってしまったことも……。また、目盛の読み方だけは習得してもらおうと、主尺と副尺の目盛を大きな紙で手作りして、黒板に貼りつけながら熱心に解説したにもかかわらず

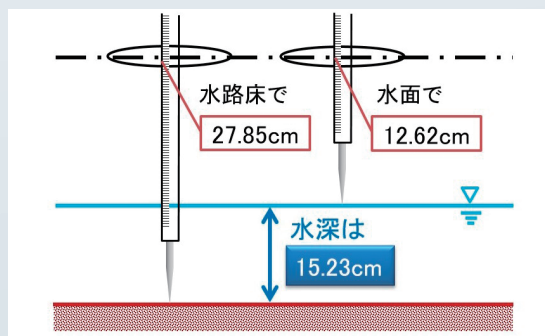
らず、翌週の実験では学生が誰一人目盛を正確に読めなくて頭を抱えたこともありました。

さて、自分が主体的になって水理実験を行ったことがないにもかかわらず、宇治川オープンラボラトリーという最先端の実験研究施設にいることは、長年私の中である種の自己矛盾になっていました。そんなとき、ある先生から「数値解析をずっとやってきた川池先生だからこそ、モデル検証のためにはどんな実験データが必要なのかがわかるの shouldn't でしょうね」というお言葉をかけていただき、大変ありがたかったです。

私にとって、水理実験の入口にあったお道具がポイントゲージでした。今の研究現場の水位計測では様々なデジタル機器が主役となりましたが、ポイントゲージも現役で、宇治川オープンラボラトリーの実験研究をしっかりと支えています。



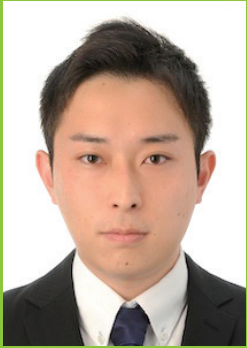
ポイントゲージを水面に合わせて、目盛を読み取っている学生。



水深を計測するには、水面と水路床の目盛りを読んでその差を取ります。

若手研究者から ⑰

防災研の将来を担う、准教授・助教・研究員・博士課程学生ら
若手研究者による研究を紹介します。



西川 友章

NISHIKAWA Tomoaki

地震予知研究センター
助教

スロー地震分布の解明と地震活動の確率予測

沈み込み帯（地球の表面を覆うプレートが、隣接するプレートの下に沈み込む地域）のプレート境界では、通常地震に加えて、多種多様な間欠的な低速断層すべり現象が発生します。これを総称して「スロー地震」と呼びます。私は、世界各地の沈み込み帯においてスロー地震の詳細な分布を明らかにするとともに、スロー地震を地震活動の確率的な予測に役立てる研究に取り組んでいます。

スロー地震は、21世紀初頭に発見された現象で、過去20年間、盛んに研究されてきました。さらに、近年では、東北地方太平洋沖地震等の巨大地震の直前にスロー地震が観測されたことを契機に、巨大地震発生メカニズムとスロー地震の関連性も注目されています。その一方、世界のほとんどの沈み込み帯では、ス

ロー地震の詳細な分布は未だ明らかではありません。また、スロー地震を、地震活動の確率的な予測に役立てようとする取り組みも、未だほとんど行われていません。

そこで、現在、私たちは、東日本太平洋沖の沈み込み帯「日本海溝」や、ニュージーランド北島東方沖の沈み込み帯「ヒクラング海溝」において、地震・地殻変動観測データを解析し、スロー地震の詳細な分布を明らかにする研究に取り組んでいます。図1は、私たちの研究チームをはじめとする日本の研究チームが最近明らかにした、日本海溝におけるスロー地震の分布をまとめたものです。この図をみると、日本海溝では、巨大地震、小地震、およびスロー地震が入り乱れて発生していることがわかります。私たちの研究によって、日本海溝では、世界で他に例を見ないほど、多種多様なすべり現象が極めて複雑に分布することが、初めて明らかになりました。この複雑な分布を生む要因の究明が、今後の課題です。

さらに、私たちは、スロー地震の詳細な分布を解明するととどまらず、スロー地震を地震活動の確率的な予測に役立てる研究にも取り組んでいます。具体的には、スロー地震が有する地震活動誘発効果を定量的に評価し、その効果を地震活動の統計モデルに新たに組み込むことで、地震活動確率予測の精度向上に取り組んでいます。私たちの作成する新たな地震活動統計モデルは、「過去の地震活動から未来の地震活動を予測する」という従来の地震学の枠組みを変更し、「過去の地震活動とスロー地震活動から未来の地震活動を予測する」という新たな枠組みを提供します。この新たなモデルをさらに発展させ、巨大地震の確率的な予測、ひいては巨大地震災害の軽減にまで役立てたいと考えています。

以上のように、新たな理学的な成果を上げつつ、それを地震災害の軽減にまでつなげることで、それが私の研究の大目標です。

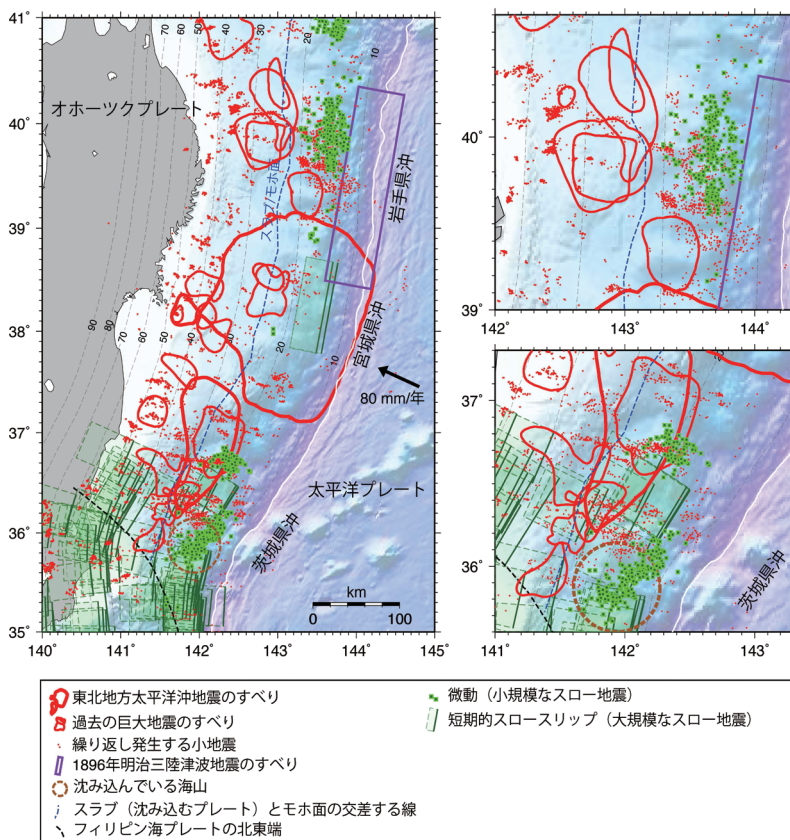


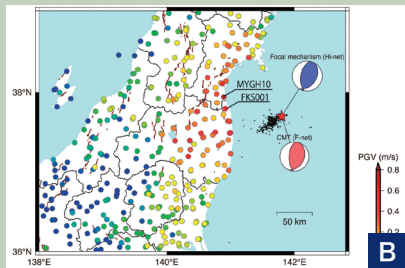
図1 日本海溝のプレート境界における多様なすべり現象の分布



A

災害調査報告を 防災研ウェブサイト に掲載しています

災害発生後の速報や調査報告を、随時当研究所ウェブサイトに掲載しています。近年発生した災害では以下のものを掲載しています。ぜひ一度ご覧ください。



B

防災研HP「災害調査報告」ページ

http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/disaster_report



2021年トカラ列島近海の群発地震に
対する緊急観測の実施

A

2021年福島県沖の地震

B

2020年台風10号

C

2020年7月豪雨災害

2020年4月～5月の
岐阜県飛騨・長野県中部地方の群発地震

2019年台風15号 房総半島台風

D

2019年台風19号

E

2019年7月18日
京都アニメーション第1スタジオ放火火災

F

2019年山形沖の地震の被害調査報告

G

2018年12月18日口永良部島噴火

H

2018年北海道胆振東部地震

I

2018年台風21号

2018年7月豪雨

2018年6月29日に米原で発生した竜巻

2018年大阪府北部地震

2018年4月11日大分県中津市金吉の斜面崩壊

2018年4月島根県西部地震



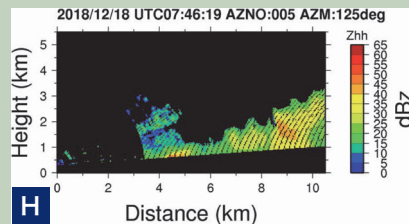
E



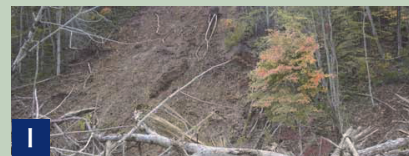
F



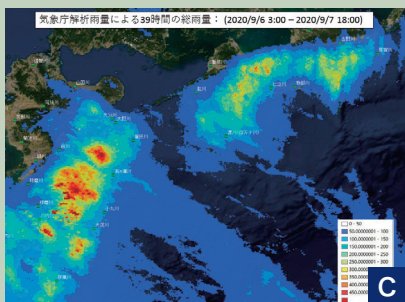
G



H



I



C



D

編集後記

70年と言われてもピンときませんよね？そこで、防災研が設立された1951年の日本を振り返ってみたいと思います。1951年と言えば、第1回NHK紅白歌合戦が放送された年です^(※1)。ちなみに2020年のNHK紅白歌合戦は第72回でした。あれっ、防災研の70周年と数が合わないと思われた方、鋭いですね！実はNHK紅白歌合戦が年始と年末に2回開催された年があるのです。第1回から第3回までは年始に放送されていたって知ってました？……いきなり話が脱線しました。気を取り直して、1951年と言えば、

私が大好きな果実飲料バヤリースの発売が開始された年でもあります^(※2)。当時からリターンブルびんを使うエコ仕様。また話が脱線しました。

日本の歴史に詳しい人は、1951年と聞いてサンフランシスコ講和条約を思い浮かべるかもしれません。防災研は戦後の日本とともに歩んできていたのです。本特集が皆様と防災研の歴史を振り返るきっかけとなり、また70年後の防災研の人々への応援メッセージとなれば幸いです。(西嶋 一欽)

(※1) NHK, 紅白歌合戦ヒストリー, <https://www.nhk.or.jp/kouhaku/history/list.html>

(※2) アサヒ飲料, バヤリースの歴史, <https://www.asahiinryo.co.jp/entertainment/history/bireleys/history01.html>

「DPRI Newsletter」のほかに、こちらからも防災研の情報がご覧になれます。



ホームページ
<https://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>



YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCQ22ABWTJkxolMxLAnLKMLQ/>



Facebookページ
<https://www.facebook.com/DPRI.Kyoto.Univ>



メールマガジン (登録ページ)
https://dpriicon.dpri.kyoto-u.ac.jp/mailmagazine/mailmagazine_user.php



Twitter
<https://twitter.com/dprietwit>

京都大学防災研究所 Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

編集／京都大学防災研究所 広報・出版専門委員会、広報出版企画室 発行／京都大学防災研究所

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 Tel: 0774-38-3348 (代表) 0774-38-4640 (広報)

ご意見・ご要望はこちらへ toiawase@dpri.kyoto-u.ac.jp

2022年1月発行